

10月25日～27日

建設経済委員会

視察先：千葉県香取市・船橋市

香取市 地域資源を活用した官民協働のまちづくり ～まちづくり型観光の推進～

香取市では、平成元年頃から江戸時代の繁栄の名残を残す小野川沿いの古い建造物の保存に取り組んだことを契機に、官民協働によるまちづくりが始まりました。

その後も町並み保存に関する取り組みを進め、平成8年には文化財保護法により指定される「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されました。

また、景観を阻害するような建造物の修理や新築のために「香取市佐原地区町並み保存事業助成金制度」が創設され、建造物の種類や修理方法などにより助成率や限度額が定められていました。

この他、住民が設立した「まちおこし会社」や商店の女性による「佐原おかみさん会」などによる中心市街地活性化の取り組み、大学生による様々な提案の実現など、実験的取り組みを重ねることにより、大きなにぎわいを創出することにも成功しています。



船橋市 観光潮干狩りの現状と課題について

船橋市では、観光潮干狩りが毎年4月から6月にかけて行われており、今年は11万4千人の人が訪れたとのことでした。

観光潮干狩りは、会場となる三番瀬海浜公園の指定管理を受けている公益財団法人の船橋市公園協会が自主事業として実施していて、市としても重要な観光資源の一つとして捉え、広報PRのほか、来場者の安全を図る潮干狩り安全柵の設置に取り組んでいました。

潮干狩りの収益について尋ねたところ、貝の購入費用などもあり潮干狩りだけでは赤字だが、駐車場の収益によりなんとかカバーしている状態とのことでした。



11月9日～11日

総務政策常任委員会

視察先：福井県越前市・岐阜県多治見市

越前市 オープンデータ越前の取り組みについて

内閣府IT戦略本部が平成24年7月4日付けで出した「新たな情報通信技術戦略」及び「電子行政推進に関する基本方針」に則り、公共データは市民共有の財産であるという認識のもと、ホームページで行政情報等を誰もが自由に再利用できるXLS、RDFの2種類のデータで公開しているとのことでありました。今後の計画としては、オープンデータの提供を行い、民間活用の促進、行政情報の透明化を図り、市民生活の向上を推進していきたいとのことでありました。



ソーシャルネットワークサービスの活用について

平成28年4月よりSNS（Facebook）を使った情報発信力強化に向けた取り組みを推進する中、新たに設置した秘書広報課市民情報サービス室が中心となり、市民、企業、団体、行政で「オール越前市」を構成し、「いいね！越前」を合言葉に、「P1S70プロジェクト」として、手間をかけずに、スピーディに、頻繁に合言葉に、ホームページの各課のトピックスの中から「写真1枚、文章70文字までの原稿を1日2回、正午と午後5時に掲載してもらう旨の運用方針を作成し、行政情報や越前産

品、観光等の地域情報を発信するプロモーションを行っているとのことでした。

今後も越前市のファンを増やしていくとともに、新たに移住希望者の増加につながっていくような施策等にも活用していきたいとのことでした。

多治見市 健全な財政に関する条例

財政を健全な状態に保つための指標や基準を定め、長期的な展望に基づく事業選定、市民の負担の均衡を図ることを目的に「健全な財政に関する条例」を制定。

具体的には、一つ目に財政の健全性を示す基準値を設定し、市民に対して情報公開を進め、説明責任を果たすことで政策選択を制限することなく情報共有と合意形成に基づき財政の健全性を確保すること。二つ目に計画段階で財政状況の見込みを公表し、悪化してからは是正するのではなく、悪化が見込まれた時点、回避のための取り組みを行うこと。三つ目に財政判断指標として、4指標（償還可能年数、経費硬直率、財政調整基金充足率、経常経費比率）を設けているとのことでした。

今後も財政状況の予測を公表することで市民に財政に対する関心をもってもらい、市民生活に真に必要な行政サービスを提供するため、本条例を活用していきたいとのことでした。



10月26日～28日

教育厚生委員会

視察先：徳島県三好市・香川県観音寺市

三好市 廃校施設の利活用について

三好市では、児童数の減少による休校の増加や地域活動の低下が見受けられるようになってきたことから、公募による休校校の活用に取り組まれています。

まずは現状把握を行うということで、休校校の詳細な現状調査を実施され、次に事例調査として、全国の活用状況の把握を行いながら地域意見交換会も実施されました。

平成24年8月21日より、募集校22校の施設名・所在・アクセス・構造・竣工年度及び写真等をホームページに掲載し、アイデアの募集を行いながら廃校の手続きや廃校後の施設管理を検討し、平成25年3月21日よ



り第1次の募集を開始し、これまでに第12次の募集まで行っておられました。

これまでの成果としては、募集22校中9校の活用を行い、募集への仕組みができたこと。また、雇用の創出についても計画では79人であるが、現時点で41人の雇用ができており、移住者も11人で、地域の活性化、振興や地元の自信の回復が見られました。

観音寺市 廃校施設の利活用について

観音寺市では人口の減少に伴い、年少人口も減少してきたことから学校等の再編を検討することとなり、観音寺市立学校等再編基本方針を策定されています。

再編の結果、廃校となった5小学校のうち3校については、比較的竣工年度の新しい施設であったため企業等への貸付も検討されましたが、市において不足している施設として活用することとなりました。

活用施設としては、教育開発や研修講座、教育相談や教育支援教室などを行う「市立教育センター」、民俗資料の展示や体験学習ができる「ふるさと学芸館」、「子育て支援センター」として活用するということでした。

11月8日～10日

市民生活委員会

視察先：島根県松江市・岡山県津山市

松江市 簡易水道統合までの経緯について

松江市の水道事業に占める簡易水道事業の比率は21%で、全国1位であるが、本市と同様に、平成29年度に簡易水道事業を上水道事業に統合することを目指しておられ、その取り組み状況について説明を受けました。

浄水場等の施設の効率的な配置、統廃合については、整備計画の見直しにより、水源23施設、浄水場19施設、ポンプ場9施設、配水池15施設を廃止し、維持管理費コストの削減を図ったとのことでした。

また、水源の転換など簡易水道統合に係る計画実施に当たっては、水源転換する地区には個別に説明会を行ったり、施設見学会を開催し、事業について理解をいただけるような取り組みを行っているとのことでした。

このほかにも、統合までの経緯、簡易水道の経営状況、



統合時の給水区域、水源転換（統合）の計画、施設の維持管理に係る包括委託等についても説明を受けました。

津山市 津山圏域クリーンセンターについて

当施設は、1日128トンの処理能力をもつストーカ式焼却炉に高効率の発電設備を備えた「熱回収施設」、1日38トンの処理能力をもつ「リサイクル施設」、3万立方メートルの埋立容量をもつ「最終処分場」に加え、「リサイクルプラザ」機能を備えた管理棟を有する総合ごみ処理センターとして整備され、平成28年4月より稼働開始した施設です。

施設建設場所の選定については、平成18年9月から公募開始し、9地区から立候補があったとのこと。

臭気対策については、工場棟は負圧して外気への臭気の影響低減対策に加え、環境管理として敷地境界での臭気調査を行うなど、臭気の拡散がないよう、万全な対策が講じられていました。

また、当施設の敷地内には、リサイクルプラザとして、自然環境学習ホール・リユースコーナー・体験工房などの施設を有し、環境学習拠点として、子どもから大人まで親しみやすい施設となっている印象を受けました。

